

日本風景街道だより

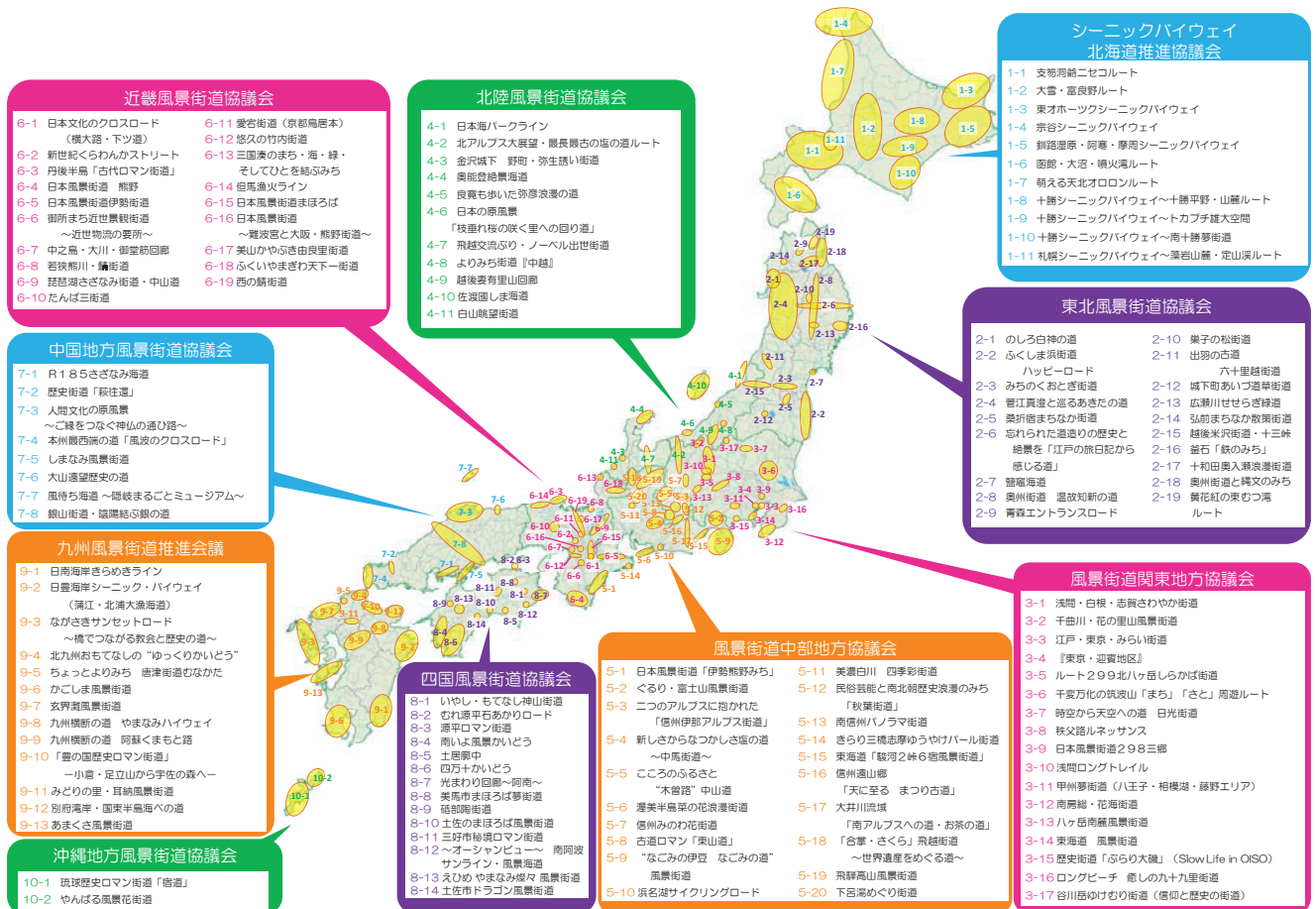
2014年夏 Vol. 29

日本風景街道は全国134ルート

日本風景街道は、現在、全国で134ルートが登録されています(平成26年7月末現在)。

登録された各風景街道の概要は、日本風景街道ホームページ

(<http://www.mlit.go.jp/road/sisaku/fukeikaidou/index.html>)、もしくは各風景街道地方協議会ホームページで閲覧することができます。



シリーズ：各地域の風景街道の取り組み

「ひと・里・森」が共に輝くまちづくり

ルート名：えひめ ^{さんさん} やまなみ ^{くまこうげんちょう} 燦々 風景街道（愛媛県久万高原町）

1. ルートの概要

この風景街道は、愛媛県久万高原町内の国道33号ほか4路線を中心に、町内全域を風景街道の活動範囲としています。

久万高原町は愛媛県のほぼ中央部に位置する高原のまちです。

総面積は584km²、標高1,000mを超える四国山地に囲まれた山間の地域で、土佐湾へ流れ込む仁淀川から分岐した、面河川、久万川が縦走する水源地域です。緑あふれる森林や仁淀川水系が生む水辺環境とともに、愛媛の雄大なやまなみなど豊かな自然に恵まれています。

その自然資源のなかには、日本3大カルストのひとつ四国カルストや日本の自然百選に選ばれている面河渓、西日本最高峰の石鎚山が挙げられ、国指定天然記念物の八釜の甌穴群や国指定名勝古岩屋などたくさんの景勝地が点在しています。

また、町立久万美術館や面河山岳博物館、久万高原天体観測館などの地域の特性を生かした文化施設やりんごやぶどうなどの味覚狩りを楽しむことができる観光農園など魅力あふれる施設もあります。

平成24年3月には三坂道路が開通したことで、松山ICから久万高原町中心部まで車で約30分となり、平成26年4月には、道の駅『天空の郷 ^{さんさん}』がオープンしたことから、久万高原町を訪れる人々が増加するなど、身近な観光スポットとなっています。



四国カルスト



面河渓



石鎚山



古岩屋

2. 活動の紹介

四国山地に広がる自然景観・文化をテーマに、豊かな地域資源を有効活用した交流による地域活力の向上を目的に、多様な団体と連携して、地域の景観・自然・歴史・文化・観光等の地域資源の発掘や保全、魅力向上につながる各種活動を実施しています。

(1) 地域ぐるみで挑戦する日本一の「さくらの里づくり」

柳谷^{やなぎだに}壮年会が、平成15年から取り組んでいる事業で、5万本のさくらを地域内に植樹し、50年後に日本一のさくらの里とすることを目指しています。桜の苗木は、しっかり伸びるように種から育て、2年ほどで植樹できるようにしています。種蒔き、苗畑づくり、除草下刈りなどの作業は、90人の壮年会メンバーだけでなく地域の方々も積極的に参加し、一年一年桜色に染まる山が広がっており、地域ぐるみで「さくらの里づくり」を進めています。



柳谷壮年会メンバー



さくらの苗畑づくり



さくらの植樹状況

(2) 道路から見る景観づくり

道路からの眺望を良くするために道路沿いの立木(スギ、ヒノキ、雑木など)の一部伐採や、景観に配慮した森づくりを行っています。また、道路沿線の美化活動を定期的に行っており、訪れる人々が気持ちよく美しい自然資源を満喫できるよう景観を整備しています。



きららの森(森づくり)



道路沿線の美化活動

(3) 風景街道でのイベント (数あるイベントの中から一部を紹介します)

① いしづるさん 石鎚山ヒルクライム

コースの距離は上り区間18.4km(全距離22.1km)、獲得標高は1100m! 西日本随一のヒルクライムとして、平成23年、久万高原町に誕生した石鎚山ヒルクライム。

日本の滝百選にも選ばれた「ご来光の滝」を遠くに眺める石鎚スカイラインをメインコースに、西日本最高峰の石鎚山を目指して駆け上がる2ヒート制のレースで、4回目となる今年は600名の参加者がゴールの土小屋を目指します。

前半からペースを上げすぎると、斜度がきつくなる後半で踏めなくなるのがこのコースの特徴で、機材の軽量化だけでなく、非計測区間の時間の使い方、他の選手との駆け引きや、コース全体を見通したペース配分など、トータルでの戦略面が結果を大きく左右する、他に類のない石鎚ならではの設定が参加者から好評を博しています。



石鎚山ヒルクライム レース状況

② 久万高原マラソン

今年で第19回を迎える久万高原マラソン大会は、ハーフ・10km・5km・3km・1.5kmのコースで久万公園をスタート・ゴールとして開催されます。

10月の久万高原が紅葉で色づく季節に、町内と紅葉で色づき始めた山間のコースを楽しみながら走れるコースです。

アットホームな雰囲気、初心者の方にも参加しやすい大会です。ハーフのコースは町内を過ぎると、最初の関門のなだらかな長い登り坂があり、ここでペース配分を間違えると、ゴール手前の上り坂に苦しみます。ゴール後は、地元婦人会がふるまう豚汁と清流米のおにぎりが、ランナーの疲れを癒してくれます。



マラソン大会 レース状況

③ 久万林業まつり

今年で44回を迎える久万林業まつりは、^{かみうけな}上浮穴林業振興協会が郡民の林業生産意欲を図るとともに、町内外に久万林業と林産を紹介するために始まりました。現在は、久万林業まつり実行委員会が主体となり林業の振興のみではなく地場産業をテーマとして、地域住民一体となり開催しています。

中高生による吹奏楽や地域の伝統芸能発表など様々なイベントを行います。また、特産品の販売や各種団体によるバザーなどもあり、おまつり広場では、親子木工広場の開設や農林業の資料・機械の展示をしています。



イベント広場の様子



親子木材広場の様子

3. パンフレットの作成

えひめやまなみ燦々振興協議会では、訪れる人々が地域資源を理解できるように、「えひめやまなみ燦々風景街道パンフレット」を作成しました。パンフレットは、観光スポットやビューポイント、イベント情報など掲載し、風景街道内の地域資源等を解りやすく紹介しています。

また、道の駅「天空の郷 さんさん」の開駅に合わせて、国道33号沿いの緑地帯やプランターに花を植栽し、彩の景観を整備し訪れる人々をお迎えしました。このパンフレット作成と彩の創出事業の費用の一部は、愛媛県に支援していただきました。

風景街道パンフレット



道の駅の木製プランター



4. 今後の取り組みについて

今年度、えひめ やまなみ燦々風景街道のホームページを開設する予定で、情報発信により風景街道をPRし、認知度を高め、来訪者の増加となるよう取り組んでいきたいと思っています。

現在、パートナーシップは、道路管理者を含めた15団体で構成しています。今後、活動するにあたっては、パートナーシップの体制強化に取り組むと共に、住民に参加を呼びかけ、地域ぐるみで景観を創成する活動となるようにすることが重要です。

美しい地域資源を活かすことで、風景街道の魅力を向上させ、観光の振興や地域の活性に繋がるよう、住民を巻き込んだ協議会活動にしていきたいと考えています。

〈執筆者〉

えひめ やまなみ燦々振興協議会事務局



シリーズ：各地域の風景街道の取り組み

ルート名：銀山街道・陰陽結ぶ銀の道



1. ルート概要（銀山街道とは）

中国地方の中央を南北に縦断する銀山街道は、世界遺産「石見銀山」（島根県大田市）として登録される石見大森銀山で産出された銀を運ぶために設けられた街道です。

戦国時代、大森銀山から産出された銀は最も近い日本海側の鞆ヶ浦港、温泉津港（ともに島根県大田市）から運び出されていました。関ヶ原の戦い後、大森銀山は徳川幕府の直轄領となり、幕府の命を受けた大久保長安は、銀の産出量を増大させ、安定的に京・大坂に運ぶために、大森銀山から山陽の港尾道（広島県）までの130kmの道のりを当時としては広い2メートル余り（7尺）の幅員で切り開きました。大森銀山から産出された銀は、尾道までの銀山街道を3泊4日牛馬270頭人足400人の隊列を組んで運ばれたといわれ、尾道まで陸送された銀は大坂まで海路にて運び出されていきました。



2. 活動状況



大田市【大森代官所跡】



美郷町【十王堂付近竹林】



世羅町【大田庄】



尾道市【浄土寺山展望台から】



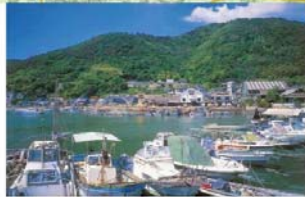
飯南町【森林セラピー】



三次市【鶺鴒】



府中市【出口通り】



福山市【鞆の浦】



笠岡市【干拓地とひまわり】



井原市【与一を偲ぶ古典芸能祭】

(1) 銀の道広域連携

銀山街道と、近世の銀交易の要衝である広島県府中市上下町から岡山県笠岡市を結ぶ街道を加えた銀の道広域連携の取り組みが平成21年度頃からはじまりました。こうした取り組みから平成24年には島根県、広島県、岡山県の銀の道沿線10市町の自治体からなる「銀山街道沿線市町等連絡協議会」と民間活動団体による「銀の道広域連携実行委員会」が設立され、沿線が一体となって連携・協働して活動できる体制ができあがりました。

平成25年10月25日、こうした活動が認められ、銀の道は、「銀山街道・陰陽結ぶ銀の道」として日本風景街道に登録されました。

(2) 沿線の見どころ(夢街道ルネサンス認定地区)を飛脚リレーでつなぎました

中国地方では歴史や文化を今に伝える街道を「夢街道ルネサンス認定地区」とし、地域の活性化や新しい「街道文化」の創出を目指しています。銀山街道沿いの認定地区である、大自然や歴史が息づく「やなしお道」(島根県美郷町)や、3本の川が合流し水陸交通の要衝として栄えた「いにしへの里 三次物怪・でこ街道」(広島県三次市)、中国山地の分水嶺にあたる峠の町の「銀山街道上下宿」(広島県府中市)、律令時代に国府が置かれた古都の「石州街道出口通り」(広島県府中市)には、歴史的景観や資源、風土を残す地域が数多くあります。

平成23年8月には、「銀の道フェスティバル・飛脚プロジェクト」を開催し、島根県・広島県・岡山県にわたる「銀山街道」を飛脚便でつなぎ、沿道の地域で行った募金を義援金として運んで、ランナーのメッセージとともに東日本大震災の被災地に、24時間テレビを通じて届けました。



飛脚リレー

(3) 銀山街道フォーラム

平成25年は大久保長安没後400年にあたり、そのミステリアスな生涯と功績を辿るフォーラムを平成25年11月に開催しました。

大久保長安は、もともと甲斐武田氏に仕えていましたが、武田氏滅亡後、徳川家康に見いだされ、初代石見銀山奉行に任じられ、銀山街道の整備を行いました。長安は斬新な鉱山経営によって江戸時代初期のシルバークラッシュをもたらしたことで知られています。後に佐渡金山奉行をはじめ全国の金銀山の統轄や、関東における交通網の整備、一里塚の建設など江戸幕藩体制構築に多大な功績を残しました。

フォーラムには、大久保長安ゆかりの地や銀山街道沿線地域からパネリストをお迎えし、大久保長安が開いた銀山街道の顕彰と銀の道を活かした地域づくりについて話しあいました。

大久保長安没後400年の記念すべき年に日本風景街道という素晴らしい制度に認定された「銀山街道・陰陽結ぶ銀の道」を磨き上げ豊かな地域づくりにつなげていくために、①案内するマップや資料の作成、②現地での案内標識、③道の駅での情報機能の充実、④ガイドや食の開発など地域のおもてなし体制、などの取り組みが必要であり、沿線地域が協議会等を核として交流・連携していくことを確認してフォーラムを終了しました。



島根県大田市大森町の町並

銀山街道フォーラム開催にあたり

銀の道広域連携実行委員会では、石見銀山街道で結ばれ縁を得た関係者の皆さまと協力して、「銀山街道フォーラム」を開催いたします。

石見銀山街道は橋樑を経た物流の道として江戸時代に整備されました。街道には今でも当時の面影を残す遺構や宿場跡が残り、地元の人達によって手入れされ親しまれています。

このフォーラムでは、石見銀山街道を整備した大久保長安に焦点をあて、そのミステリアスな生涯と光跡を辿ります。大久保長安は徳川家康に才能を認められ、石見銀山、佐渡金山をまじめとする鉱山開発とロジスティクスを整備して、徳川幕府の財政を支えつした。毛利 和雄



尾道市御調町、石見の古道

銀山街道フォーラムの顔ぶれ

 <p>望月 誠一 山梨県河川防災センター理事長 山梨県河川生まれ、建設者に専念し、第1回土木事業所長賞一賞、第2回地方建設局長賞、第3回土木事業所長賞を受賞。現在は「山梨県河川防災センター」理事長、地域活性化推進協議会常任幹事、山梨県土木研究会委員を務める。著書に『富士川決壊異変』。</p>	 <p>林 光輝 世羅町古道を歩く会 事務局次長兼世羅町観光大使、大府正徳分館勤務のとき中山町史の編輯にあたる。現在は世羅町教育委員会社会教育課主任兼学芸員、世羅町古道を歩く会、及び、世羅町すずらんボランティアガイド事務局、「大田庄からの古道をたどる」行事にてナビゲーターを務める。</p>
 <p>濱野 浩 元佐渡市世界遺産推進課 課長補佐 新潟県佐渡市生まれ、旧佐渡市役所歴史資料館の史編纂業務に従事。『佐渡の歴史』、『佐渡の文化』、『佐渡の食』、『佐渡の暮らし』等の著書がある。現在は『佐渡の歴史』、『佐渡の文化』、『佐渡の食』、『佐渡の暮らし』の編集に携わっている。</p>	 <p>塩形 幸雄 街道歩き愛好会 元国土交通省職員 広島県尾道市在住。元広島県庁、三友川町、尾道市、地方事務局長、地方事務局長などを歴任。国土交通行政、地域開発に関心を持ち、ライフワークとして、尾道地域SDGを推進した仲間等と歴史街道を歩いている。著書に『銀山街道』など。</p>
 <p>仲野 義文 石見銀山資料館 館長 山梨県山内市生まれ。『財』の歴史村地域振興事業委員を経て、2017年より石見銀山資料館館長、日本近世史が専門で、主に江戸時代の鉱山の史記、経営、技術について研究する。主な著書に『銀山社会の解明 - 石見銀山の歴史と社会 -』『街道の日本史 - 出雲 - 石見銀山街道』(共著)など。</p>	 <p>毛利 和雄 シューカツ・瀬戸内海町文化研究所長 広島県尾道市生まれ。1981年入局。大府正徳を経て、1984年尾道市議会議員として文化財保護に専念。2012年より尾道市に移住し、瀬戸内海町文化研究所長として地域文化の調査・発信に取り組む。著書に『尾道古道歩き』、『尾道市史』、『尾道市史』、『尾道市史』、『尾道市史』など。</p>

と き 平成25年11月17日(日)
 12:00~14:00 銀山街道ウォーク (尾道市御調町 宇根の古道)
 14:30~18:15 銀山街道フォーラム (講演・パネルディスカッション)
 18:30~20:30 交流会

と ころ 尾道ふれあいの里 (広島県尾道市御調町高尾1359 電話番号 0843-00-0000)
 ※参加お申し込みが必要です。詳しくは裏面をご覧ください。

【パネリスト】
 望月 誠一 (山梨県河川防災センター理事長)
 濱野 浩 (元 佐渡市世界遺産推進課 課長補佐)
 仲野 義文 (石見銀山資料館 館長)
 林 光輝 (世羅町古道を歩く会 事務局)
 塩形 幸雄 (元 国土交通省中国地方整備局職員)

【コーディネーター】
 毛利 和雄 (ジャーナリスト)

【司会】
 石川 典子 (フリーアナウンサー)



主催 銀の道広域連携実行委員会
共催 街道ネットワーク尾道
後援 尾道市、尾道市観光協議会、中国経済連合会、中国地方整備局、広島県、島根県、岡山県、中国経済連合会、府中商工会議所、尾道しまなみ商工会、(一社)尾道観光協会、御調町観光協会、世羅町観光協会、中国新聞備後本社、山陽日日新聞社、尾道ケーブルテレビ

協賛 中村ブライス(株)、(株)石見銀山生活文化研究所、尾道御調ライオンズクラブ、(有)みつぎ交流館

備考 このフォーラムは銀の道全線ガイド育成事業、並びに、(社)中国建設弘済会助成事業です。



ご参加いただくにはお申し込みが必要です

銀山街道ウォーク 定員25名(正午 ふれあいの里玄関前集合)
 銀山街道フォーラム 定員 80名
 交流会(参加費 4,000円) 定員 80名

問合せ・申込み先 ※10月15日 受付開始
 電話/fax 0348-38-7969、携帯 C09-1334-3346
 E-mail tongfu99@gmail.com
 銀の道広域連携実行委員会 事務局(東風有限会社内)

銀山街道フォーラムの開催



案内標識の設置



フォーラム後の交流会

(4) 銀の道スーパーガイドの育成

銀山街道の歴史や見どころなどを親しみやすく案内するための「銀の道スーパーガイド養成講座」として、島根県大田市や広島県世羅町、広島県府中市などのガイドグループをお招きし、尾道市御調町にある、当時の面影を残す銀山街道「宇根の古道(1.2km)」を地域ガイドと共に歩き、交流を深めました。ワイヤレスでガイドの音声を離れた場所でも聴けるヘッドセットを用いた案内が好評でした。



古道の清掃



銀の道スーパーガイドの育成



ワイヤレスヘッドセットを用いたご案内

(5) 銀の道カレンダーの制作

銀の道沿線市町の郷土画家の皆さんの協力で、銀の道沿線の四季折々の風景や、人々の豊かな暮らしぶりなどが描かれたポストカードサイズ14枚組の平成26年版カレンダーを制作し、銀山街道フォーラムの参加者や沿線市町の関係者に配布しました。また、道の駅等でも1部500円で販売を行い、400部用意したカレンダーは完売しました。銀の道カレンダーは今年度以降も制作を継続し、銀の道の魅力を発信してまいります。

【 2014版 銀の道カレンダーの挿絵 】



1月 冬の大森町並(大田市)



2月 早春の代官所跡(大田市)



8月:住吉浜(尾道市)

(6) 広がる 交流の輪

平成24年から25年にかけて、大森銀山ガイドの会のメンバーを中心に世界遺産石見銀山から銀山街道を歩き、尾道から海路で大阪まで、いにしへの銀の道をたどる旅が催され、道中沿線の人たちとの交流を深めました。

尾道の空き家を再生し、招き猫美術館や梟の館などユニークな創作活動を行っている画家の園山春二さんが平成25年から銀の道を歩き、沿線の人々と交流しながら石に描いた猫「福石猫」をお気に入りの場所に置いていく旅を続けています。銀山から採掘される銀を含んだ鉱石のことを「福石」といい、中国横断自動車道・尾道松江線が全線開通する平成27年に「銀の道福石猫展」を尾道で開催する予定です。



銀の道をたどる旅『尾道港～牛窓～大坂港』の道ゆきぶりツアー(H24.10.27～28)



銀の道沿線に置かれた「福石猫」

(7) 銀の道キャラクター 銀蔵さんとシルビアちゃん

銀の道に素敵なキャラクターが登場しました。銀山奉行の家臣で銀山街道の整備や銀の輸送に関わった銀蔵さんと京都から東京銀座に移り住んだ渋めのファッションが好みのシルビアちゃんです。二人は猫に姿を変え時空を超えて飛び回ることができます。尾道市立大学の学生さんと銀の道ガイドの交流から平成24年に誕生しました。



シルビア

銀蔵

銀の道キャラクター

(8) しまなみ海道とつなぐ銀の道サイクリング

サイクリングの聖地しまなみ海道を目指し、世界から大勢のサイクリストが訪れています。この賑わいを瀬戸内海から中国山地につなげていくために、銀の道沿線にサイクリストのための案内標識の整備やサイクリングイベントが広島・島根両県で検討されています。



銀の道サイクリングイベント

(9)道の駅を起点としたおもてなし体制の充実

銀の道沿線には江戸時代に整備された辻堂と常夜灯が数多く残っています。出雲大社や金毘羅詣での旅人の休憩施設として地域の人々がお金を出し合って建立し、現在でも大切に守られています。道の駅の原点とでもいうべき辻堂と常夜灯を活かした散策ルートづくりの取り組みが始まりました。道の駅を起点として、ウォーキングやサイクリングを楽しんでいただくために、案内標識の設置やマップの作成、仮設トイレの設置、お茶会やお弁当のお接待イベントなど安全で楽しく地域の人々とふれあえるような仕組みづくりに取り組んでいます。

【 道の駅を起点としたおもてなし体制の充実 】



抹茶と百合の根を使った和菓子
のお茶会セット



猪の天ぷらと山菜おこわ弁当



「辻堂」を活用した休憩・交流所

3. 終わりに

銀山街道に並行して建設中の「中国横断自動車道尾道松江線」が今年度の開通を予定しています。

大久保長安の時代には考えられないほど便利に、速く陰陽が繋がることとなりました。遠方からの観光客の方も広島・島根に来やすくなる一方で、バイウェイとなる沿線地域は単なる通過点とならないよう、来訪者を地域に呼び込んで活性化へと繋げていくことがこれからの課題です。昨年度の日本風景街道への登録により、銀山街道沿線の各地域の活動が一本の線、面へとつながりました。これをきっかけに、銀山街道沿線の各地域と連携し、魅力をPRしながら、広域的な地域づくり目指していきたいと考えています。

皆さまも是非一度、「銀山街道・陰陽結ぶ銀の道」へお越し下さい。「福石猫」もお待ちしています。

〈執筆〉

銀の道広域連携実行委員会 副会長 加藤 慈然

シリーズ：社会資本整備総合交付金等の活用事例

広域連携活動推進事業 ～「人のネットワーク」の様々な活動への波及～

ルート名：浅間・白根・志賀さわやか街道（群馬県）

1. ルート紹介

浅間・白根・志賀さわやか街道は、軽井沢を玄関口に、浅間高原を縦断し、草津温泉から志賀高原へと続く全長約 200km のルートです。

浅間山や白根山を有する本地域は、避暑地・別荘地として古くから高名な軽井沢をはじめとして、自然豊かで雄大な景色を持っているとともに、草津、万座や湯田中、渋などの有名な温泉リゾートがあります。四季を通じてダイナミックに変化する魅力的な景観や自然との調和を図る地域への発展を目指しています。



ルート概要図

2. 活動の紹介

(1) 植栽活動

来訪者が気持ち良く観光できるようにと「植栽によるおもてなし」を目的に、各町村の個々の活動団体が、同じ日・同じ種類の花を植える「合同植栽活動」などを行っています。

(2) 写真コンテストの開催

活動地域内の良好な景観の発掘と観光振興を目的に、「写真コンテスト」を毎年開催しています。入賞された作品は、各町村で巡回展示を行い、地域の魅力をアピールしています。

(3) ワークショップ開催

『地域創発の街道運営を具体的に体験し始動しよう』をテーマに、地域回遊型のワークショップを開催。地域活動団体と関係町村が各地域を巡り、隠れた魅力の掘り出しを行い、ご当地検定問題集と卓上カレンダーを作成しました。

3. ルートサイン設置事業

道路ネットワークと観光資源を有機的に結びつけた広域的な案内標識を設置することにより、来訪者にわかりやすい道づくりを行うことを目的に、ワークショップでデザインや表示内容を検討し、社会資本整備総合交付金を用いて、これまで、道の駅、簡易駐車場、ビューポイントなどの5箇所に設置しました。



ワークショップ

(1) デザインの検討

- ・地元森林組合に相談し、間伐材を使用した看板デザインの素案を作成。
- ・ワークショップに提案し、パートナーシップが意見を出し合い、デザインや表示内容を検討しました。
(ワークショップでの意見)
 - ・美しい景観を邪魔しない。自然にとけ込むもの。
 - ・シンプルで見やすく。(町村名、主要地点、道の駅を表示)
 - ・ドライブ計画を立てやすくするため、区間距離を表示 …等。



ルートサイン



(2) ルートサインの設置

設置は合同植栽の開催日に併せ、パートナーシップの皆さんと道路管理者の両者によって建て込み作業を行いました。



建て込み作業



設置状況「道の駅」



設置状況「簡易駐車場(ビューポイント)」

4. 交流事業

平成24年10月に開催した全国サミット「風景街道サミットinあさま」をきっかけに、東京日本橋で活発に活動している“江戸・東京・みらい街道”と合同植栽活動を計画しました。当街道内の群馬県立中之条高校の生徒が育てたサルビアの花苗を提供し、日本橋での合同植栽に参加することによって、社会貢献、世代間交流、地域交流を通じて、人材育成、意識の醸成、活動の活発化が図れるとともに、活動のPRを行いました。



合同植栽(国道4号“三越本店前”)

(1) 合同植栽

将来の地域活性化を担う高校生と、地元のパートナーシップと一緒に東京日本橋へ行き、現地で同様の活動・志をもつ方々と合同で植栽活動を行うことにより、世代間交流や地域交流を深めました。



街頭PR(日本橋“滝の広場”)

(2) PR活動

道行く方々に街道沿いの景観や自然を紹介するチラシを配付し、「全国のみちの起点」である日本橋から、地元の魅力を発信しました。

5. 今後の展望

地域の個々の活動団体が連携し、街道各地に『おもてなし』の取り組みが波及し“美しい風景”と“人のネットワーク”が広がることを期待します。

そのために、今後も活動報告会やワークショップ等を通じ、パートナーシップ相互がアイデアを出し合い、創意工夫していく体制を築いていきたいと思ひます。

風景街道地方協議会及び連絡窓口はこちらへ

風景街道の活動を積極的に支援するために、各風景街道地方協議会に連絡窓口を設置しております。
日本風景街道に関するご相談等がございましたら、風景街道地方協議会の連絡窓口までご連絡下さい。

◆風景街道地方協議会の連絡窓口一覧

担当部署	担当者氏名	電話番号
シーニックバイウェイ北海道推進協議会 (北海道開発局 建設部 道路計画課 内)	畑山 朗	011-709-2311(代表) (内線 5845)
東北風景街道協議会 (東北地方整備局 道路部 道路計画第二課 内)	増澤 亨	022-225-2171(代表) (内線 4256)
風景街道関東地方協議会 (関東地方整備局 道路部 道路計画第二課 内)	石浜 康賢	048-601-3151(代表) (内線 4252)
北陸 風景街道協議会 (北陸地方整備局 道路部 道路計画課 内)	杉 浩行	025-280-8880(代表) (内線 4213)
風景街道中部地方協議会 (中部地方整備局 道路部 計画調整課 内)	稲垣 光正	052-953-8171 (内線 4312)
近畿風景街道協議会 (近畿地方整備局 道路部 地域道路課 内)	南條 耕平	06-6942-1141(代表) (内線 4612)
中国地方風景街道協議会 (中国地方整備局 道路部 地域道路課 内)	糸原 保	082-221-9231(代表) (内線 4613)
四国風景街道協議会 (四国地方整備局 道路部 地域道路課 内)	黒口 貴弘	087-851-8061(代表) (内線 4612)
九州風景街道推進会議 (九州地方整備局 道路部 道路計画第二課 内)	石橋 賢一	092-471-6331(代表) (内線 4252)
沖縄地方風景街道協議会 (沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課 内)	大城 照彦	098-866-1914 (内線 4353)

【ご意見をお寄せください】

日本風景街道だよりは、地域の皆様へ様々な情報を提供することを目的に年4回程度発行する予定にしています。掲載内容などご意見・ご感想がございましたら、下記までお気軽にお寄せください。

日本風景街道だより

発行：国土交通省道路局環境安全課道路環境調査室
東京都千代田区霞が関2-1-3
TEL: 03-5253-8497 FAX: 03-5253-1622

<http://www.mlit.go.jp/road/sisaku/fukeikaidou/index.html>